

奥州街道宿場町

宿場町から
新たな未来を

富谷

しんまち

VOL.5

かわら版

新年あけまして

おめでとうございます。

本年、富谷しんまちは開宿400年を迎えます。

内ヶ崎筑後(後に織部と改名)により、元和6年(1620)に、奥州街道72番目の宿場町として「まち開き」されたしんまち。そうです。ことし2020年にしんまちは開宿400年を迎えるのです。

「しんまち活性化プロジェクト」では、開宿400年を迎えることを機に、新たな「まちのブランドの再構築」を行っています。400年前に、しんまちが宿場町として意志を持って開かれたように、市民が主体となって、まちの「多様なゆたかさ」を共有・交流することを目指します。

ただいま、
新しいまちづくりのビジョンを
策定ちゅう〜です！

まちづくりに必要なことは、みんなが共有できるビジョンをつくること。みんなの想いをひとつにする、そう、それがまちのビジョンです。「しんまち活性化プロジェクト」では、新たなまちのビジョンづくりを目指しています。

2020年



しんまち

いろはかるた！

い
いつまでも
ゆたかさ香る
このしんまち

ろ

路地うらで
出会いもうれし
新しき春

は

晴れやかに
開宿400年
迎えましょ！



令和元年11月23日(土)

「地域資源の活かし方をみんなで考えよう！」
ディスカッション実施！

令和元年11月23日(土)、観光事業の専門家である宮城学院女子大学の宮原育子教授をお招きして、「開宿400年に向けて地域資源の活かし方をみんなで考えよう！」という講演&ディスカッションを実施しました。

ご自身が会長を務められている「とうほく街道会議」などの実例を交えて、地域資源を活かすまちづくりを紹介いただきました。関山街道フォーラム事務局等の横山修司氏も参加されていて、今後何らかのコラボレーションも期待できます。

宮原先生が考えられる街道は

「自分たちの足で歩き、沿道の風景、歴史文化を感じ取る体験型タイムマシン」。住民と旅人の交差点であり、多様な情報や文化の入り口である宿場町の可能性をまちづくりに活かしていけるのでは、と話されました。

最後に宮原先生から「地域資源とは、外見だけでなく、その場所にいた人たちのだけの財産。他の地域にないものを見つけつつ、かつ他の地域とつながれるものを見つけていくことが大事です」というアドバイスをいただきました。

新たな交流の「まち開き」へ。

開宿400年を機に、さらに愛着の〈宿場町〉に！

目指す宿場町は、ゆたかさの交流と未来への可能性を〈宿す場所〉です

宿場町とはたんに宿泊する場所ではなく、ゆたかさの交流と未来への可能性を〈宿す場所〉。

交流拠点としてのしんまちの魅力を磨き上げていくことを目指します。

学びたくなる
宿場町

開宿から400年という長い歴史の中に、様々な歴史を積み重ねてきたまち。内ヶ崎作三郎氏など、様々な地元の偉人も輩出して、いろいろな学びができるまちです。

歩きたくなる
宿場町

しんまちは、表通りだけでなく、裏通りにも、横道にも、風情ある風景との出会いがあるのです。迎え入れるためのおもてなしの環境整備など、歩きたくなるまちを目指します。

出会いたくなる
宿場町

時代を超えて交流できるまちづくり。ITやアートや情報発信なども通して、次世代や他地域との交流も深めていきたい。それが「交流型宿場町」としての未来像です。



しんまちのさまざまな話題を発信！
富谷しんまちの情報発信Webサイト
<https://shinmachi-tomiya.com>